# 教育研究所だより

令和３年度　No.9（３７４号）
令和３年　９月　１３日（月）
発行所：いの町教育研究所


## 菊池学園事業実践報告会（第2回菊池学園担当者部会）<その2>

### 神谷中ブロック

（発表者：吉村　美鈴　教諭　　下山　真矢　教諭）

◆ぷっくりハート育成事業4つの部会組織

- 成長ノート部会…時期に合わせたテーマで書く
- 価値語部会…あらゆる場面で児童生徒を肯定的に評価
- ほめ言葉・成長の木部会…人の見方や評価の仕方を高める
- 小中連携部会…連携が途切れないよう、報告・相談

◆5月19日校内研修（小学５・６年国語科）

＜授業者より＞

- 学習リーダーが自分たちで学習を進め、安心した雰囲気の学級づくりを目指している。

＜研究協議より＞

- 教師の役割（分かりやすいめあてや指示）
- デジタル教科書などの効果的な活用
- 学びを深める手立て（発問の工夫）
- 国語科の中で文学を学ぶ。
- 研究協議の課題を自己の授業に生かすため、検証授業を行った。そこから、ねらいにせまる発問の工夫や思考を深める時間配分、全員参加のための手立て、聞き方のルールについての課題が挙げられた。

菊池先生より

- 子どもたちは友達の発言を笑顔で聞き合い、友達に対してほめ言葉が自然に出ていると感じます。温かい学級づくりができているのではないでしょうか。
- 挙手⇒指名⇒発表のみからの脱却をした授業をすれば、自分たちで学びを作っていこうとする現象が見られ、全員参加の授業に向かっていきます。
- 小規模ならではの全校学活。生徒に必要な課題を対話・コミュニケーションを通じて考えさせ、それを発信する。これは校種関係なくできる活動です。
- 聞き方のルールは、得てして躾的なものになりがち。共感的に聞き合い、話し合いを中心に授業をする教室であれば、聞き方のルールはもっと能動的に発展します。

枝川小学校の価値語テンプレート

### 伊野中ブロック

◆価値語の植林

（発表者：小田原　　典寿　　教諭）

- 価値語集会を年３回行い、全校に価値語を紹介する。価値語掲示板を利用。
- 子どもたちと価値語を考えている。
- 写真を撮っているが、価値語として掲示できていない。そこで、価値語テンプレートを作り、紹介した。

菊池先生より

- テンプレートで負担を減らすというのがいい取組ですね。DVDや菊池学園だより、先生方の実践の事実を活用してください。
- 写真を撮って言葉を掲示する、というのは価値語の取組の一つの手法です。これが全てではないので、様々な手法を活用してください。

伊野中ブロック

◆成長ノート（発表者：河本　勝一郎教諭）

- 1年間を見越したテーマで取り組んでいる。
- 子ども同士を子どもの言葉でつなげたい。先生が伝えたいことを言うのではなく、子どもの言葉を紹介して価値づけていく。そういう場を提供できるのが成長ノートの効果。
- 高学年はなかなか自分の内情を伝えることができないが、成長ノートに赤ペンを入れることを通して、先生との信頼関係を構築できる。
- 自分のことを振り返らせて、書かせることが小学生にとっては必要。
- 菊池先生の書籍にある成長ノートのテーマを活用した。

菊池先生より

- 河本先生は「ご自身の取り組みに菊池実践で耐震補強をする」という考えを持たれています。

◆公開授業の研究協議と学校寺子屋の報告
（発表者：田所　三佳　教諭）

- 質問することで考えを広めたり深めたりすることができるが、そのためにも児童の考えをつないでいくにはどうすればよいかということが課題としてあげられる。
- 質問の必然性がある授業形式を繰り返す必要があることや、「人と論を区別する」ことの重要性、また効果的な教師の介入が必要であることを学んだ。
- 7月からは、毎時間の授業で対話の時間を保障する授業づくりに取り組んでいる。

菊池先生より

- 公開授業や寺子屋での学びを、その後の指導に活かしてくれているのが嬉しいですね。
- 教師の技術、人間関係づくり、教師の介入、この3つが肝です。
- ある程度対話時間を確保すると、子どもたちは建前ではなく本音で話し合います。教師の姿が子どもたちの前から消える、そんな授業を目指しましょう。

◆小中連携
（発表者：土居　一文　主幹教諭）

- 生徒が挨拶や掃除ができる。小学校での取り組みが身に付いている。
- 仲間のいいところをきちんと見ようとする生徒がいる。
- 生活日誌で、自分や友達について振り返る時間を設けている。日誌の内容は通信でも紹介することで、仲間同士のつながりが強くなっている気がする。
- 先輩へのあこがれにより、挨拶や掃除ができるようになっている。

菊池先生より

- 生徒側が自分たちで自分たちの良さに気づき、それを広めようとしていますね。
- 子どもサイドの関わりや働きについて、計画しましょう。学校行事が生徒同士を関わらせるカギでしょう。

## 参加者アンケートより

**〇各ブロックの取組が、よく分かった。**
肯定的評価　90.5%
**〇各ブロックの取組は、参考になった。**
肯定的評価　100%
**〇菊池先生の講評・講話は、参考になった。**
肯定的評価　95%

高い肯定的評価をいただきました！

### 参加者コメント

同じ取組でも、目の前の子どもに応じて様々な手段があるんだと思いました。目の前の子どもをしっかりとみて、自分も取り組んでいきたいと思います。2学期へのパワーをいただきました。

学級通信に子どもたちの言葉を載せる際、先生が注目してほしい言葉や価値ある言葉を、赤字にして子どもたちに示しているのが参考になりました。そうすることで、より子どもたちが言葉への意識を高めていくと思いました。

素晴らしい取組、実践があったので感想を言えばよかったです。

菊池先生からのご意見を本校区の教職員に紹介し、意見交換をしていきたいと思います。

具体的な取組が、何を目的に行われているのかを常に問いながら、子どもたちのために実践していきたい。

菊池学園の取組の成果や経過が分かるものについて、各学校だけでなくいの町として良かったことなどを具体的に知りたい。

菊池先生、コロナで大変な中、いの町に来ていただき、感謝です。それぞれの実践についてのご助言が大変勉強になりました。

一番最初に教育長の言葉が聞けたことがとても嬉しかったです。

研究所より

- 各学校の取組を共有でき、有意義な会になりました。担当者の皆様には、準備等ご協力いただきありがとうございました。
- 急遽オンライン研修になりましたので、機器の設定や時間配分、感想の共有など十分な配慮ができませんでした。次回の研修の参考にします。
- 学校だけではなく、町としての方針も定期的に発信していく必要がありますね。
- 各学校でぜひ情報共有をお願いします。